

# 野菜・花きの営農情報


《 8月中旬～9月中旬の技術対策 》



令和4年8月15日発行  
第4号  
空知農業改良普及センター本所  
Tel : 0126-23-2900  
Fax : 0126-22-2838

## 【全作物共通】

- ① 各種病害虫が発生しやすい時期となります。高温多湿条件では、病害の進行や害虫の生育ステージが早まります。発生初期を見逃さないためには、ほ場観察が大切です。
- ② 農薬散布前には最新の作物登録内容を確認しましょう。また、農薬使用基準を守り、薬害や他作物への飛散に注意し、防除を実施して下さい。
- ③ 気温が平年よりも低いことが予想される日は、ハウス内の気温が生育適温を下回らないように、ハウスを閉める時間を早めるなどして夜温を確保します。また、ハウスを締め切ったままにすると、多湿により灰色かび病などの病害が発生するため、必ず朝1回は大きく換気してモヤ抜きを行いましょう。
- ④ 台風や大雨に備えて周囲の排水対策やハウスバンドの締め直しなど、風雨に対する備えに常時留意して下さい。
- ⑤ 適期収穫と選別の徹底に努め、出荷物の品質を維持しましょう。
- ⑥ 収穫後は有機物の施用など土づくり、ほ場環境の整備に努めましょう。

## 【野菜（果菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
ミニトマト	<ul style="list-style-type: none"><li>・5月上旬定植「キャロル10」では、8月15日現在、生長点付近の茎葉伸長は緩慢ですが、第11花房の開花期となっています。果実の着色は平年並に回復し、第4～6花房の収穫が進んでいます。</li></ul> <p><b>【管理のポイント】</b></p> <ul style="list-style-type: none"><li>・着果負担が大きく「なり疲れ」による草勢の低下、高温時のかん水や追肥不足による草勢の低下が見られます。かん水はマルチ下の土壤水分を確認し、少量多回数とします。</li><li>・9月以降は夜温が低くなり、果実の成熟に日数を要します（開花から収穫まで50日以上必要）。収穫打ち切り時期を考慮し、8月20日頃を目処に主枝を摘心しましょう。</li><li>・夜温が低下する時期は、裂果が発生しやすくなります。土壤水分やハウス内湿度の変化を小さくしましょう。低温時は保温に努め、かん水を控えましょう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・花弁や葉先枯れ部分から、灰色かび病が発生しています。「キャロル10」では斑点病が発生しています。</li><li>・古い花弁、収穫が終わった花房下の葉、葉先枯れ症状の葉、病葉を早めに除去し、病害の予防に努めましょう。</li><li>・換気による除湿、定期的な防除に努めましょう。</li></ul>  <p>灰色かび病が発病した花弁</p>
きゅうり	<ul style="list-style-type: none"><li>・今後は気温の低下に伴い、側枝の発生が緩やかになります。</li><li>・整枝は、半放任で強い摘心を避け、摘葉を中心とした管理で草勢維持に努めましょう。また、雌花の着生していない側枝は早めに除去し、繁茂しないようにしましょう。</li></ul>	<ul style="list-style-type: none"><li>・べと病の発生が見られます。発生状況に留意し適期に防除しましょう。</li></ul>

作物名	今後の留意事項・対応技術	病虫害・生理障害対策
かぼちゃ	<ul style="list-style-type: none"> <li>肥大に必要な養分を確保するため、葉を健全に保ちましょう。</li> <li>収穫の目安は花梗部にひびが入り、果皮の表面が堅くなってからです。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>果実に直射日光が当たることで「日焼け果」になります。</li> <li>葉を健全に保つためにうどんこ病の防除を徹底しましょう。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">日焼け果</p>
夏秋いちご	<ul style="list-style-type: none"> <li>日中の温度が 25℃以上にならないよう、循環扇、遮光資材等を活用しましょう。</li> <li>いちごは、乾燥や過湿に弱い作物なので、朝の葉つゆの状況を見ながらかん水を行きましょう。また、排液のEC値を参考に給液管理を行きましょう。</li> <li>秋の収穫盛期を迎えるために摘果・摘花を行うと共に追肥を適切に行い、成り疲れによる草勢の低下に注意しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>花卉の落ちが悪いと、そこから灰色かび病の発生につながります。薬剤防除のほか、こまめな換気などの耕種的防除も行いましょう。</li> <li>アザミウマ類、ハダニ類の適切な防除対策を行きましょう。特に、アザミウマ類は果実被害が発生するため、粘着板を活用し初期防除を行きましょう。</li> <li>シクラメンホコリダニの発生に注意し、初期防除を行きましょう。</li> </ul>  <p style="text-align: center;">アザミウマ類</p>

### 【野菜（葉茎菜類）】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病虫害・生理障害対策
たまねぎ	<ul style="list-style-type: none"> <li>殺菌剤防除により品質低下を抑えましょう。</li> <li>粗選別は機械の処理速度を抑え、発病球が混入しないように慎重に選別しましょう。</li> <li>収穫が終了したほ場では、排水対策や後作緑肥による土壌のメンテナンスに努めましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ネギハモグリバエの発生が多くなる時期です。りん茎への食害を防ぐため、防除を行きましょう。</li> <li>貯蔵腐敗病の防除を重点的に行いましょう。</li> </ul>
アスパラガス	<ul style="list-style-type: none"> <li>夏芽の収穫が中盤となり、収穫終わりまであと約 1 ヶ月となりました。</li> <li>水分不足は夏芽及び翌年の春芽の収量低下、穂先の開き、曲がりの原因になります。かん水は適切に行いましょう。</li> <li>うねの表面は、常に湿った状態とします。うねの表面が白く乾いたらかん水しましょう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>ツマグロアオカスミカメ、ヨトウムシ、アザミウマ類など害虫は気温が高い場合、発生が多くなります。ほ場をよく観察し、適期に薬剤防除を行きましょう。</li> <li>降雨が続く場合、灰色かび病、斑点病、茎枯病が発生しやすい状況となります。適切な枝整理を行い、薬剤防除を実施しましょう。</li> </ul>

## 【花 き】

作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
カーネーション	<p>3月上旬定植「ミモザ(スタンダード)」では8月10日現在で、草丈95.7cmとなっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮光資材は、天候を考慮して掛け外ししましょう。また、気温が下がってきたら9月中旬頃までには外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に行いましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水処理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>秋に2番花を採花する予定のほ場は、1番花の採花終了後、草勢を維持するため、適期にかん水と追肥を行いましょう。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>水あげ用バケツは十分に洗浄し、水の使い回しは避けましょう。</li> <li>降雨後の採花は前処理時間を延長し、STSの吸収量が不足しないようにしましょう。</li> <li>箱内の湿度が高まらないように、茎が濡れた状態での箱詰めは避けましょう。</li> </ul>	<p>病害虫・生理障害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハダニ類、アザミウマ類、鱗翅目類の発生がある場合は、防除を実施しましょう。また、同じ剤の連続使用は避け、系統の異なるものを散布しましょう。</li> </ul>  <p>アザミウマ類の被害を受けた花卉</p>
作物名	今後の留意事項・対応技術	病害虫・生理障害対策
スターチス (シヌアータ)	<p>4月上旬定植「トールブルー」では8月10日現在で、草丈67.2cm、葉数75枚となっています。</p> <p><b>【温度管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>遮光資材は、天候を考慮して掛け外ししましょう。また、気温が下がってきたら9月中旬頃までには外します。ただし、日差しの強い日中は避け、曇天日や夕方に行いましょう。</li> </ul> <p><b>【かん水処理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>2番花立ち上げに向け、かん水と追肥を行いましょう。</li> </ul> <p><b>【その他管理】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>他の農作業と重なる時期ですが、適期採花を目指し採花遅れや切り残しのないようにしましょう。</li> <li>選花場では水あげ用バケツに入れる花の本数を減らし、扇風機で空気の流れをつくる等、花が蒸れないようにしましょう。</li> <li>また、低温庫から出してすぐに箱詰めをすると、箱の中は蒸れやすくなります。箱詰め前に外気温にならす、紙をはさむなど蒸れ対策をしましょう。</li> </ul>	<p>病害虫・生理障害対策</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>降雨が多くなり、湿度が高まると、灰色かび病の発生が懸念されます。定期的に予防防除を行いましょう。</li> <li>また、病気の発生源としないよう、1番花の採花が終了したほ場は、枯れた下葉を取り除きましょう。</li> <li>ハダニ類、アザミウマ類の発生が見られる場合は、防除を実施しましょう。</li> </ul>  <p>ブラシで発生した灰色かび病</p>

★農薬を使用する場合は、必ず使用基準を守りましょう★